山田洋次監督の作品―『遥かなる山の呼び声』

山田洋次監督の作品のなかで、とりわけラストシーンが印象的なのが『幸福の黄色いハンカチ』（1977 年）と『遥かなる山の呼び声』(1980 年)である。ともに高倉健と倍賞千恵子が主演であり、舞台は北海道である。前者のラストシーンは、出所した健さんが黄色いハンカチが風になびく自宅に戻るシーンだ。そこに至る健さんと武田鉄矢・桃井かおりとの「かけあい」も面白い。

ここでは『遥かなる山の呼び声』をとりあげよう。

北海道東部の根釧原野で一人息子を育てながら牛飼いをしている民子（倍賞千恵子）のもとに、田島（高倉健）が迷い込んでくる。田島は無口ながら必死に牛飼いを手伝い、民子にも信用され、幼き頃の吉岡秀隆が演じる息子にも慕われる。健さんのたくましさ、格好よさが印象に残る。民子の心の「揺れ」を表現する倍賞の演技もうまい。田島はある「事件」により警察に追われる身であった。そして警察に捕まり、網走刑務所に向かう列車の中がラストシーンとなる。

民子は途中の駅から列車に乗り込む。２人の刑事の前で、田島に話しかけることもできず、隣の座席からじっと見つめる。そこに民子を慕っていたハナ肇演じる虻田があらわれ、民子に話しかけるシーンがじつに感動的だ。虻田は民子が牧場を閉じ、町で働いていることを田島に伝わるように大きな声で話す。

そして「息子と二人で、何年も先に帰ってくる旦那を待っているっていう話、ありゃ本当かね」とたずねると、民子はうなずいて気持ちを伝える。虻田とともに、田島の目からも涙が落ちる。民子は刑事に断りながら、田島にハンカチをわたす。列車は雪の大自然のなかを走りつづける。心に残る、忘れられないラストシーンだ。

（2006 年 8 月 13 日　記）